

2 術後のケア、生活指導

くさば眼科クリニック 院長
草場喜一郎 くさば・きいちろう

重要! キーワード!

- 術後合併症の予防、● 術後眼内炎、● 眼球保護、● 点眼指導、● 生活指導

術後のケアのポイント

日本国内における白内障の手術件数は年間約 157 万件¹⁾であり、外科的手術の中でも最も多い部類に入ります。白内障手術は、昔の「見えるようになればよい」という時代から、現在の「いかに見えるようにするか」という見え方の質を求められる手術に変化しています。白内障手術は現在、局所麻酔によりほとんど痛みを感じることはなく、術式や器具などの進化によって以前より格段に目への負担が少なくなり、安全性も高まっています。しかし、手術である以上は、安全性は 100%とは言い切れません。そこで、術後のケアが大切になってきます。

術後ケアは、術後合併症を予防すること、術後合併症が起こったときに可能なかぎり迅速に対応し、適切な治療につなげることが大切です。また、手術を受けた患者さんが「手術も簡単で手術時間も短く、問題なく終わって、よく見えるようになったから安心だ」と感じるのと同時に、「白内障手術にも術後合併症があるので、注意が必要だ」という認識を持ってもらうことが、術後ケアには大切です。

術後ケアと術後合併症の予防

術後合併症の予防のために、注意すべき合併症にはどのようなものがあるかを知っておくことが大切です。最低限知っておくべき術後合併症を紹介します。さらに術後合併症の予防のための術前点眼や術後点眼の指導や説明、術後の日常生活に関する注意や生活指導など、白内障手術を受けた患者さん、家族へ説明すべきことを解説します。

■ 術後眼内炎

術後眼内炎は、手術の切開部などから感染（細菌など）した場合に発症します。現在行われている、創口が小さい短時間の白内障手術では、術後眼内炎の頻度は 0.025%程度²⁾と実際に起こることは極めてまれですが、発症す

ると術後合併症の中で最も重篤なものです。

術後眼内炎には、早発性と遅発性があります。早発性の術後眼内炎は、そのほとんどが術後3日～1週間以内に起こります。早発性の場合、発見や治療が遅れると最悪の場合、眼内に強い炎症が起こり、失明に至ることもあります。自覚症状は急激な視力低下、眼痛、充血、眼脂、霧視（かすみ）などですが、最も多いのは霧視で、「術後の急激なかすみや視力低下」の訴えは最も注意を要する症状です。

■ 創口閉鎖不全

創口閉鎖不全があると、創口より細菌が眼内に侵入し、術後眼内炎が起こるリスクが高まるので注意が必要です。白内障手術の切開創の作製には、角膜切開と強角膜切開の2種類があります。一般的には角膜切開の方が強角膜切開よりも強度が弱いため、術後の眼球保護に注意が必要です。そのため、患者さんには術後の眼球保護のためのカップや保護眼鏡の装用をきちんとしてもらい、眼球を圧迫したり、目をこすったりしないように術前と術後に指導し、守ってもらうことが大切です。

■ 眼圧上昇

術後炎症などや緑内障のある患者さんの場合、術後一過性に眼圧上昇することがあります。軽度な上昇から40mmHg程度まで、場合によってさまざまです。眼圧が高い場合の症状として、眼痛、頭痛、吐き気、霧視などが生じます。術翌日の診察で眼痛、頭痛などの症状を訴える患者さんがいれば、早急に検査を行い、医師の診察を受けてもらうことが大切です。

術後眼内炎の予防方法

術後眼内炎が失明につながる重大な合併症であることをお話ししました。では、術後合併症を予防するにはどうすればよいのでしょうか？術前点眼および術後点眼の指導や説明、術後の日常生活に関する注意や生活指導などの方法について具体的に説明します。

■ 術前点眼・術後点眼指導や生活指導

● 術前点眼・術後点眼指導の実際

術前点眼は術後眼内炎の予防のために、術後点眼は術後眼内炎の予防や術後消炎のために必要不可欠です。術前点眼は術前3日からの抗菌薬点眼が推奨されています。手術3日前からの抗菌薬点眼により眼瞼縁、結膜囊の細菌を60%程度減らすことができたことが報告されています^{3,4)}。このことより、白内障手術などの内眼手術の術前抗菌薬点眼は、術前日や手術当日ではなく手術3日前から行う方が効果が高いといえます。

白内障手術の点眼薬				
	あさ	ひる	よる	寝る前
手術3日前～				
手術当日			/	
手術翌日～				
／ 以降に 先生より 指示があります				
1 カ月後				

★ 複数種類の点眼をする場合は、5分以上間隔を空けてください。

図1 白内障手術の術前・術後の点眼表

くさば眼科クリニック（以下、当院）では、術後眼内炎の予防や眼球保護の観点から、術前と術後の点眼薬のさし忘れや間違っ点眼することがないよう、術前オリエンテーション日に、図1に示す「白内障手術の術前・術後の点眼表」および図2に示す「術前・術後点眼と生活指導の説明書」を看護師と一緒に見ながら、患者さんに（家族同伴の場合は一緒に）説明しています。同時に、正しい点眼方法と点眼ボトルの取り扱いについても説明しています。さらに、勤務している全スタッフがこの点眼表や説明書の内容を共有し、受付・会計時、検査時、診察時に随時何度も説明できる体制にしています。図2の説明書には、点眼してもらった薬剤名ならびに製剤写真、点眼をする具体的な日付、点眼スケジュールを記載して、患者さんがわかりやすく、見やすいように工夫しています。術前オリエンテーションの最後に、図1、2の説明書に加え、手術日、術前点眼の開始日、術後の緊急連絡先な